

二〇一八（平成三十）年度 金沢学院短期大学 入学試験問題

一般入試Ⅰ期

二〇一八年二月三十日（火）実施

国語

I 注意事項

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから14ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答用紙は、マークシート用紙と記述用解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答番号は10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は記述用解答用紙」と表示がありますので、記述用の解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

今までにコンピュータや、産業用ロボットのようなものは多くの企業で使われており、人の作業支援や代替、場合によっては人では不可能なことも実現してきました。こうした、人にとって難しいけれども機械にとつては簡単だった作業がある一方、人間にとつては子供にさえ簡単にできるけれども、機械には簡単にできない作業があります。

AIの研究者たちは、こうした①ジショウをとらえて「モラベックの②パラドクス」と名付けました。モラベックのパラドクスとは、大人ができることよりも子供ができることをコンピュータに実現させる方が難しいということです。この考えは、1980年代にハンス・モラベック、ロドニー・ブルックス、マービン・ミンスキーといったAIの研究者たちが明確化したものです。モラベックは「コンピュータに知能テストを受けさせたりチェッカーをプレイさせたりするよりも、1歳児レベルの知覚と運動のスキルを与える方がはるかに難しいか、あるいは不可能である」としています。

AI研究の第一人者である東京大学の松尾豊先生は、子供が成長に合わせて言葉をしゃべるようになったり、ものをつかんで動かすようになったりなど、子供が経験から学んでいくような知的活動を③「子供のAI」と呼んでいます。それに対して、ビッグデータを活用し、人が専門的知識を活用して詳細な振る舞いまで設計しているAIを④「大人のAI」としています。

「子供のAI」は、モラベックのパラドクスで⑤シサされた、従来は機械にやらせることが非常に難しかった作業を実現するAIです。そして現在起きているのは、「子供のAI」がまさに⑥ディープラーニングなどの先端的な機械学習の技術によって可能になってきたということです。

人間にしかできないと思われていた、さまざまな作業が次々と実現しています。（a）視覚情報からコーヒーマップと椅子を識別すること、2本の脚で歩き回るロボット、ベッドルームからリビングまでの経路を見つけるといったことが実現しているのです。そのため、AIやロボットのビジネス活用に対する今までにない可能性が高まるとともに、⑦キソンの職業に対する支援や代替の可能性が高まると予想されているのです。

日本は世界でも類を見ないスピードで少子高齢化が進展しています。人口推移のうち、経済・労働環境を考える上でとくに問題になるのは、「生産年齢人口」です。「生産年齢人口」は生産活動に従事する15～64歳の人口で、日本では1995年の8726万人をピークに減少し始めています。ピークから20年を迎えた2015年時点で7708万人と、1000万人以上も減少しています。

予想では、2030年には「生産年齢人口」が6700万人ほどになり、「生産年齢人口率」は63・8%（2010年）から58・1%（2030年）に低下するといわれています。このように、日本では単に人口が減少するだけでなく、「生産年齢人口」が大幅に減少するという事態に直面することになります。世界の中でも、日本は⑧こうした課題にいち早く直面する先進国であり、これらの課題の解決に向けた、AIやロボットの活用に期待が広がっています。

もちろん、少子高齢化対策はAIやロボットの活用のみで解決するものではありません。労働者の減少への対応としては、外国からの働き手の受け入れを主張する人たちもいます。経団連でも15年の夏季フォーラムで移民の受け入れについて、「移民に頼らざるを得ない。（オ）（閉じている）ドアを開けにいかないといけない」などと言及しています。（b）、人口減少の影響は、いわゆるブルーカラーのみでなく、高度な専門知識を必要とするようなホワイトカラーにまで及ぶと予想されます。そのため、日本が今後必要とする人材が移民という形で補填されるかは議論がされるべき点だと思います。

とくに高度な人材を移民として受け入れるためには、日本が移民にとって働きやすい国であるかという点への考慮も必要です。移住する側にも移住先の選択肢があり、日本が彼らにとって選ばれる国でなければなりません。日本が今まで移民を受け入れる土壌がなかったという点ひとつとってもハードルの高さを感じますが、給与水準や長時間労働の観点からも欧米諸国と比較して見劣りする点も多いといったことを、われわれはきちんと認識すべきだと思います。

また、業種、業務によつては、人材不足は④ギンギンの課題となっており、移民などの制度変更を待てない状況になっています。帝国データバンクが2016年に実施した調査によると、正社員について「不足」していると回答した企業は37・9%で、企業の約4割が正社員の不足を感じています。また、非正規社員が「不足」していると回答した企業は24・9%となっています。業種別に見ると、非正規社員では、「飲食店」の79・5%に次いで「飲食料品小売」「娯楽サービス」「旅館・ホテル」「メンテナンス・警備・検査」が50%以上の企業において人材不足であると回答がありました。とくに、「飲食店」「飲食料品小売」「旅館・ホテル」「メンテナンス・警備・検査」の4業種は、正社員においても50%以上が人材不足と考えており、雇用形態の違いにかかわらず、人手が足りていない様子がうかがえます。すでに大手の飲食店のチェーンが、一部の店舗の一時休業や時間帯休業の⑤ソチを取る対応をしており、今後他の業種、業態においてもこのような事態が広まることが懸念されます。

現在、「子供のAI」が利用可能となり、従来不可能であった業務に対しても、AIやロボットが活用できつつあります。その結果、日本が抱える人材不足の問題を、業務の効率化によつて対応できる可能性も高まっています。一部の業務を除き、現在の技術ではコストや機能の面で、AIやロボットによって人の業務を完全に代替することは困難ですが、人を支援することにより業務効率を向上できる可能性は今後ますます拡大するでしょう。

短期的には、AIやロボットによる職業の代替リスクを懸念するよりも、人と機械が協調して働くことにより、より少ない人数で同等以上の業務を遂行できるようにするための方策を模索すべきだと思います。

（古明地正俊・長谷佳明『AI（人工知能）まるわかり』による。一部改変。）

（注）ディープラーニング——深層学習。人間の脳を模した「ニューラルネットワーク」を使って、コンピュータに大量のデータを学習させる手法。

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は

1

 ～

5

。

① ジシヨウ

1

① 物理の専門書をサンシヨウする。

② 美術館で絵画をカンシヨウする。

③ 事故の損害をバイシヨウさせる。

④ 自然界のゲンシヨウを観察する。

⑤ 裁判のソシヨウについて調べる。

② シサ

2

① 中古品の価値をサテイする。

② 凶悪な犯罪をキョウサする。

③ 思わぬ出来事がレンサして起こる。

④ 彼女にサギでだまされて損をした。

⑤ 基準となる値とのヘンサを測る。

③ キソン

3

① 自分の出番までタイキする。

② 心の中のヒキこもごもの感情。

③ 法律で厳しくキセイされている。

④ 故郷にある実家にキセイする。

⑤ キトクの権益を守ってもらう。

④ キツキン

4

① 国の財政をキンシユクする。

② 美しくキンセイのとれた彫刻。

③ 相手に著書をキンテイする。

④ 今週はカイキンで働いている。

⑤ この店は常にキンエンである。

⑤ ソチ

5

① 友人に仕事のグチをこぼす。

② 大学を地方にユウチする。

③ 犯人を独房にリュウチする。

④ 王が諸国の人民をトウチする。

⑤ 何も知らない彼のムチを笑う。

問2 空欄（ a ）（ b ）に入る接続詞として、それぞれ最も適当と思われるものを、次の①～⑤の中から一つずつ選べ。

解答番号は a 〓 6 、 b 〓 7 。

- ① しかし ② ところで ③ たとえば ④ なぜなら ⑤ または

問3 傍線部（ア）「パラドクス」とあるが、ここでの「モラベックのパラドクス」の意味の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 8 。

- ① 人間には子供より大人ができることの方が難しいように思われるが、コンピュータには子供ができることでさえ実現させることが難しいという皮肉。

- ② 従来はコンピュータやロボットが人間では不可能なことも実現してきたので、コンピュータがさらに進歩する将来では、天国のような社会になるという予想。

- ③ コンピュータが子供より大人ができることを実現できると並行して、大人よりも子供ができることを実現できるということを、AIの研究者たちが明確化した学説。

- ④ 知能テストを受けさせたりチェッカーをプレイさせたりすることが難しいことと、1歳児レベルの知覚と運動のスキルを与えることが難しいことが関連する変数。

- ⑤ 普通は子供より大人ができることの方が難しいように思われるが、コンピュータには大人よりも子供ができることを実現させる方が難しいという逆説。

問4 傍線部(イ)「子供のA I」と(ウ)「大人のA I」とあるが、両者の違いを説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 9。

① 「子供のA I」は、子供が言葉をしゃべるようになったり、ものをつかんで動かすようになったりするように成長するA Iであり、「大人のA I」は、既に完成していて人の業務を支援するA I。

② 「子供のA I」はディープラーニングなどの先端的な機械学習の技術によって可能になったA Iであり、「大人のA I」は、人間にしかできないと思われていたさまざまな作業が実現できるA I。

③ 「子供のA I」は子供が成長に合わせて経験から学んでいくような知的活動ができるA Iであり、「大人のA I」は、人が専門的知識を活用して詳細な振る舞いまで設計しているA I。

④ 「子供のA I」は、人を支援することにより業務効率を向上できるような知的活動ができるA Iであり、「大人のA I」は、ビジネスに活用して人の業務を完全に代替するようなA I。

⑤ 「子供のA I」は、従来は機械にやらせることが難しかった作業を実現するA Iであり、「大人のA I」は、人間の子供だけでなく大人もできないような作業を実現できるようなA I。

問5 傍線部(エ)「こうした課題」とは、こういった課題か。その指示する内容の説明として最も適当と思われるものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 10。

① 日本は世界でも類を見ないスピードで少子高齢化が進展して、超高齢化社会になるという課題。

② 日本では1995年の8726万人をピークに、大幅に人口が減少し始めているという課題。

③ 日本では急速に人口が減少しており、企業の約4割が正社員の「不足」を感じているという課題。

④ 日本は急速なスピードで少子高齢化が進展して、「生産年齢人口」が大幅に減少するという課題。

⑤ 高度な人材を移民として受け入れるために、働きやすい国にならないという課題。

問6 傍線部(オ)「(閉じている)ドアを開けにいかないといけない」は比喩表現であるが、その指示する内容の説明として最も適当と思われるものを、

次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 労働者の減少に対応するため、これまで制限していた外国からの移民を受け入れなければならない。
- ② 島国特有の内向的な気質を打ち破り、心を開いて外向的に世界の国々と交渉しなければならない。
- ③ 自国の利益に有利な政策をしていないで、グローバル経済に則って自由に貿易をしなければならない。
- ④ 2本の脚で歩き回り、ベッドルームやリビングのドアを開けるロボットを開発しなければならない。
- ⑤ 民族や国籍・宗教などで差別をせずに、世界の多くの人々と自由で寛容な外交を行わなければならない。

問7 次の文章は、問題文を短く要約したものである。本文全体を踏まえて、に入る適切な文章を考えて、70字以上80字以内でまとめ

て記せ(ただし、句読点を含む)。解答は 記述用解答用紙。

従来不可能であった業務が「子供のAI」によつて可能になった現在では、を模索すべきだ。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

病み上がりの「僕」は、医者に勧められ、毎日防波堤に通って釣りをしている。その常連の中に、十歳前後と見える、とりわけ釣りが上手な二人の兄弟がいた。貧相な子供たちで、釣り道具も粗末だが、いつもたくさん釣る。ある日、僕が目を離れた隙に、僕の餌箱えさばこから（注）ゴカイが盗まれ、そばにその兄弟がいた。僕と目が合った弟はおびえた様子を見せ、兄は釣り糸の先を見つめたまま、じっと動かない。僕は二人がゴカイを盗んだことを確信する。

僕が近づくと、二人は急にキンチョウしたようだった。かたくなに僕の方を見ないようにして、ことに弟の方は背をかたくして、あきらかにおそれに満ちた表情でそっぽを向いている。子供の餌箱の中には、僕のと大体同じ型の同じ大きさのゴカイが、ぐにやぐにやともつれ合っていた。そして子供の浮子うきがビクッと大きく動いた。

「そら、引いてるじゃないか」

そう僕は言いかけて、途中で止めた。兄は釣竿つりざおを上げようとはしない。じっとしている。浮子が動かなくなつて、それからそろそろと竿を上げた。糸の先は針ばかりになっている。餌をとられたのだ。

「バカだな。しつかりしろ」

そう言おうとして、僕はやはり言わなかった。（ア）向うも内心ジタバタしているが、別の意味でこちらもジタバタしている。その意識が急に僕の口辺くわを硬こわばらせた。僕はそのまま背を向け、振り返らず、まっすぐに防波堤を岸の方に歩いた。防波堤は岸に近づくにつれて低くなり、満潮時だから海水に没している。膝頭までひたす海水を、はねのけるような気持ちで進みながら、何だかやり切れない感じがしだいに強くなって来た。子供たちからなめられたような気がしたのか、子供の所業がしやくにさわたったのか、またその所業を見逃した自分がやりきれなかったのか。そしてあいつ等は、餌を盗むのに、沢山の中からよりによつてこの俺をえらんだ。どういう目安めやすで俺に

a

のか、そういうことを考えることは、あまり愉快なことではなかった。連れでもいたら、その連れに話すことで、幾分気持は軽くなるだろうが、僕はその時ひとりだった。口下手な僕は、ことにその頃は性質も湿ぬっていて、防波堤でもどの常連とも会話すら交わしたことはなかったのだ。

まあその日から一週間ばかり経った。やはり曇ったような天気の不ハッキリしない日だった。前の日とちがつて、魚の当りが悪かった。潮加減がよくなかったのだろう。僕は朝から釣れないで、(b) いい加減くさつていた。その上岩にひっかけて、糸を何本も切らしていた。昼の弁当を食い終っても、僕の(c) 魚籠はほとんど空だった。そこでもう今日は止めて帰ろうと思ったのだ。

そしてふと振り返った時、そこにこの間の子供がいたのだ。この前と同じように、兄弟並んで、ぼんやりと海を眺めている。その時僕は、ほとんど無意識に、そして彼等に気付かれないように、自分の餌箱を脇に引き寄せていたのだ。次の瞬間、(d) その自分のやり方が急にあらあらしく僕に反撥してきた。これらのジタバタが始まった。

「ふん」

と僕は思った。そんならあの子供たちに、今日はこちらから餌をわけてやる。そんな思いつきがとたんに頭をかすめた。もうどうせ帰るのだから、残りのゴカイは不^ふ用なわけだ。ゴカイというやつは、とても条件を良くしないと、翌日まではもたないのだ。

僕は立ち上った。餌箱をぶら下げて、ためらわずに兄弟に近づいて行った。

^{あしおと}登音を聞いて、兄弟は振り向いた。警戒するように二人の表情は突然するどくなった。兄の方は、よりそってきた弟をかばうように、身体を動かして構えた。その兄の眼付きは、僕を(e) たじろがせるほど烈^{はげ}しかった。

「餌をやるのか。え？」

さり気なく言ったつもりだが、あるいは兄弟はその語調のうちに、なにか(f) 底意を感じたのかも知れない。

「餌がないのだろう。いらないのか」

子供の傍の餌箱は空で、底には少量の泥がかさかさ^さに乾いている。兄は警戒の色をますます深め、じっと僕をにらんでいる。弟の方の顔はしだいにくずれて、今にも泣き出しそうな顔になった。しかし泣き出しはしなかった。眼をキラキラさせて、^{くちびる}唇を噛みしめている。僕はしだいに自分のこんなバカな思い付きを後悔し始めていた。しかし、このままではひっこみつかない。僕は少しいらだって来た。

「餌、欲しくないのか」

笑って見せようとしたが、笑い顔にならなかったかも知れない。僕は餌箱を眼の前につき出そうとした。その時突然、兄の方がいやにはっきりと答えた。

「いらん！」

そうか、と僕は言い、しかし俺はもう帰るし、どうせ餌は捨てるんだから、要るのなら置いてゆくよ、とまだ言い終らないうちに、
「いらん」

とも一度兄が言った。ほとんど同時に弟が唇を曲げるようにして、

「いらないぞ」

とつけ加えた。②兄の声は、まえほどつつけんどんではなく、やや弱々しくひびいた。そうか、としかし僕もすこしむっとした。しばらく視線を合わせていたが、僕は突き出した餌箱の恰好がつかず、そのままゴカイを放り出すようにして海面に捨てた。三人の視線は一度にその方に動いた。赤くもつれ合ったゴカイは、ひとかたまりのまま緑色を帯びた海水に落ち、そこでやわらかくほぐれ、数条の赤い模様をつくり、美しく伸び縮みしながら、しずかに沈んで行った。沈んで見えなくなるのを見届けて、僕は子供に背を向けた。

(梅崎春生『魚の餌』による。一部改変。)

(注) ゴカイ——環形動物の一種。釣りの餌として用いられることが多い。

問1 空欄 a に入る最も適当な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 秋波を送った ② 馬脚を現した ③ 眉毛を読まれた ④ 白羽の矢を立てた ⑤ 睨^{にら}みを利かせた

問2 二重傍線部 (b)、(d)、(e) の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は b 13、d 14、e 15。

(b) いい加減くさっていた

- ① 疲れて動けなくなっていた ② 変に落ち着きを失っていた ③ ひどくいらいらしていた

- ④ 待ちくたびれて飽きていた ⑤ かなり気が沈んでいた

(d) たじろがせる

① おびえさせる

② 尻込みさせる

③ むっとさせる

④ 呆れさせる

⑤ 警戒させる

(e) 底意

① 本心

② 本音

③ 下心

④ 秘密

⑤ 罣わな

問3 二重傍線部(c)「魚籠」の読みとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

① さかなごめ

② うおいれ

③ ぎよしよう

④ ひしお

⑤ びく

問4 傍線部(ア)「向うも内心ジタバタしているが、別の意味でこちらもジタバタしている」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

① 兄弟は、盗んだゴカイで釣りをしていることを僕の目から隠そうとして、引いているのに釣竿を上げることができない。僕は、確証がないため、兄弟を叱責できないでいる。

② 兄弟は、自分たちの盗みに僕が気付いているかどうかかわからず、緊張して僕の出方をうかがっている。僕は、兄弟を見逃すとも咎めるとも決めかねて、行動できないでいる。

③ 兄弟は、態度を特に変えない僕の様子に盗んだことを後悔し始めたが、とっさには動くことができない。僕は、事を荒立てずにやり過ぎたいと思う一方、悔しさを押さえきれないでいる。

④ 兄弟は、今になって大それたことをしてしまったと恐怖を感じ、体を凍りつかせている。僕は、その様子を見て気の毒になり、許そうと思うが、口下手でうまく話しかけられないでいる。

⑤ 兄弟は、釣りが下手なのに、さらに餌を盗まれるほど迂闊な僕を侮うかつっているが、表面上は怒らせないように振る舞っている。僕は、兄弟のそのような思いを何となく察し、漠然とした怒りを感じている。

問5 傍線部（イ）「その自分のやり方が急にあらあらしく僕に反撥^{はんぱつ}してきた」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから二つ選べ。 解答番号は 18。

① 一週間前には子供たちを責めず、見逃した形になっていたのに、実は子供たちへの憎しみを抱き続けていた執念深い自分に気付き、我ながら呆れたということ。

② 子供が相手なのに、おおらかにその行為を受け止めることができず、ついこだわってしまう自分の器の小ささが、乗り越えるべき壁として突然見えたということ。

③ 子供たちと会話すべきだったと一週間前に後悔したにもかかわらず、同様に陰で事を運ぼうとしてしまう陰気な自分に、急に反省の念が湧いたということ。

④ 原因に直接当たってわだかまりを解決せず、今以上の摩擦をのみ避けようとする姑息な自分の態度に、ひどく嫌悪を感じ始めたということ。

⑤ 毎回余るほど餌はあるのに、なぜ子供たちに分けてやるという寛大な発想がでなかったのかと、自分の狭量さを責める気持ちが生まれてきたということ。

問6 傍線部（ウ）「兄の声は、まえほどつつけんどんではなく、やや弱々しくひびいた」とあるが、ここから読み取れる兄の心情を、20字以上40字以内で述べよ（ただし、句読点を含む）。 解答は 記述用解答用紙。

第3問 次のA～Eのことわざについて、空欄 に当てはまる語を【語群】①～⑥の中から、意味を【意味】①～⑥の中から選べ。

解答番号は 19 ～ 28。

A	「一事が 19 事」	意味	20
B	「縁 えん の下 21 持ち」	意味	22
C	「火中 かちゅう の 23 を拾う」	意味	24
D	「 25 危うきに近寄らず」	意味	26
E	「袖振り合うも 27 の縁 えん 」	意味	28

【語群】

- ① 太鼓 ② 栗 ③ 善人 ④ 万 ⑤ 力 ⑥ 賢人 ⑦ 多生 ⑧ 君子 ⑨ 些少 ⑩ 石

【意味】

- ① 失敗にこりてしまつて、用心し過ぎること。
② 些細なことも何らかの因縁によつて結ばれているものだ、ということ。
③ 立派な人は自ら進んで危険な場所に近づいたり、禍わざわいを招くような愚かな行為はしない、ということ。
④ 表面にあらわれないで人の知らない苦労や努力をすること。
⑤ 他人のためにあえて危険をおかすこと。
⑥ 一つを見ればすべてが推察できる、ということ。

第4問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本人は「目」とか「川」など、日本で生まれた言葉に片っ端から漢字をあてはめて書いていった。しかし中国にそれにあたるものがない場合は、漢字で書きようがない。その場合は、日本で漢字のような文字を作っている。それを国字と呼んでいるが、「峠」とか「畑」とかいうのはすべてこの国字である。

A

英語では「働く」にあたる言葉は *work* というが、机に向かって勉強しても *work* になる。日本では机で勉強することは働く中に入らない。掃除をするとか物を修理するとか、他人のためになることをしなければ働くにならないのである。

B

働きながら働くことを楽しんでいること。これが日本人にぴったりするのである。和英辞典で「いそしむ」を引くと、*endeavor* (努力する) と出てくるが、*endeavor* には楽しむという意味はないと思われる。

働き過ぎとか、働き蜂とか言われるが、私は働くことを楽しむという日本人の性格はすばらしいものだと思う。日本がここまで発展したのも、この言葉があったからだという気がするのだが。

飛行機に乗って日本の上空を飛ぶと、山は大体緑色をしている。日本は木が多いから自然にそういう色をしているので、われわれは別に驚きもしないが、この地球全体を見ると、そういう国は珍しいと言わなくてはならない。地理の時間などに使う地形図というものがあるが、高い山は茶色に、低い平野部は緑色に塗られている。

C

日本の山が緑なのは、日本に木が多いため、その結果日本人は多く木造の家に住み、家具の類も木製のものを多く使う。食器にも箸やお椀など、木製のものを使うのは、世界でも珍しいことである。日本人にとって木は親しみやすいものである。

そのため、木に関する単語もたくさんある。「木の間がくれ」「木の下闇」などという言葉は、ヨーロッパの辞典にはそれにあたるものはないだろう。「木漏れ日」という言葉を和英辞典で引くと、*Sunbeams shining through branches of trees* という大変長い訳をつけている。

D

ヨーロッパの童話劇『青い鳥』の森の場面では、森の木たちが一斉に狼や狐の味方をして人間を襲ってくるが、日本の童話だったらむしろ森の木は人間に味方してくれるのではないだろうか。

「山はあおき故郷。水は清き故郷」というのはまさに日本の自然の美しさそのもので、あらためてこういう歌を歌える幸せを感じないではいられない。
花散るや伽藍の枢落としゆく 野沢凡兆

春の夕方静かになった寺の境内には、僧が戸締りする音だけが響く。そんな光景を見守るように、サクラの花がハラハラと散っている。花というのはサクラのこと。梅や椿の花では、こうした風情は生まれない。

サクラの花ほど、昔から日本人に愛された花はないだろう。

E

この花の潔さが日本人の国民性とびつたりなことが、これほどまでに愛された理由なのだろう。

(金田一春彦『ホンモノの日本語』による。一部改変。)

問い 空欄 A E の中には、次の①～⑤のいずれかの文章が入る。最も適当なものを一つずつ選べ。

解答番号は A 29、B 30、C 31、D 32、E 33。

① 普段はそこにあることも気がつかないのに、季節がくると、まるで明かりがついたように、ぱつと華やかに咲き誇る。そして一週間もたつと、惜しげもなく花びらを散らせて、またもとのひっそりとしたたたずまいに戻る。

② およそ国字のうちで一番多く使われているものは何かと言ったら、人偏に動くを書く、「働く」という文字だろう。いかにも働くことが好きな日本人にびつたり文字である。

③ 「あれ、山は緑なのに」と小さい頃は疑問に思ったが、これは近隣の朝鮮半島・中国をはじめとするアジアにおいても前に述べたスペインもそうだが、日本以外の多くの国では、山ははげ山、枯れ山が普通であるからだ。

④ また、大きくて古い樹木は神が宿っているように見たり、浄瑠璃の『三十三間堂棟由来』では人間が神の木の精と結婚をする。民話には人間がクスノキやヒノキと結婚する話もある。

⑤ さて、およそ日本語の中で一番日本人の心構えをよく表す言葉は何だろうかと考え、私は「いそしむ」という言葉だと思う。「いそしむ」は働くという意味だが、ただ働くでは「いそしむ」にはならない。